

# 平成16年度第3回「鳥取市政懇話会」産業振興部会

## 会 議 要 旨

日時：平成17年3月31日（木）

午後1時30分～3時30分

場所：鳥取市福祉文化会館会議

出席者 【委員】清水昭允、太田義教、安養寺幸男、宇津原恵美、大木戸武敏、川上一郎、  
児嶋祥悟、坂本匡範、橋本保、浜田あけみ、山本朝子  
【鳥取市】石谷副市長、山下農林水産部長、大西経済観光部長  
企画調整課 山川

### 1. 開 会

#### 2. 部会長あいさつ

鳥姫線のそういうインフラ整備で、産業界もようやく他地区と交流のできる条件が整ってくる。この8次総の中でその受け皿、準備をどうするかによってこの産業部会というのは影響が出てくる。農業、商業、工業がそういう条件が整った中で、これまでより一味違った形のものをいかに出すかが問題。

工業と農業との連携が必要で、両方に詳しいプロデューサーが仕組みをつくり、上手にそれを商売に結びつけていくというようなことが必要で、名プロデューサーと名コーディネーターがいて、農業、工業、それに連携して商業が活気づいていったらいい。

産業の一番強いのは雇用を発生させること。雇用を発生させるとそこに家庭ができ、家族ができということで、商店街も潤い好循環になるし、税収も上がる。

### 3. 議事（概要）

○委員 薄汚れたウインドー、ショーケース、あるいは販売員がいないというようなお店は少なくなっているような気がする。7次総までの提案が実効を上げているのではないか。良質な駐車場は、根本的にかかなりの経費も人、労力も要るが、ジャスコとダイエーの例でもわかるように、駐車場の善し悪しが経営に影響する。市内にも良質な駐車場ができれば、客の回遊が始まるのではないか。駅前のケヤキの森あたりでも観光バスの三、四台ぐらいできる駐車場があれば、そこを起点にしてタクシーなりレンタサイクルで観光やショッピングができる。駅前拠点地区をもう一度再考されたらどうか。

○委員 駅の横に20分無料という駐車場がある。そういうのがもっとあると大変便利。時間も20分ではなくて30分ぐらいだと、少し足を延ばして買い物もできる。いい制度なのでもっといろんなところに広がればいいと思う。

○委員 サービス券を出している場合、駐車場はこの店舗のみと限定されている。鳥取市内は統一で、どこでもいいから買い物したらどこの駐車場でもいいというシステムをつくるとまだ利用しやすい。

○委員 駅前というものをどう考えるか。そこに店舗があるから集客するというのもあるが、魅力のある店舗、あるいはその中身によって人の流れは変わってくる。今ある不便なところ、狭いところに高いコストをかけてやるのが果たしていいのか。人の流れは、呼び寄

せる魅力によって人を呼ぶのであって、駅前が中心でなければならないわけではない。

- 委員 駐車の問題というより都市として本当に魅力あるかどうかが一番のポイント。駐車場も個人の駐車場を持っている人には収入が必要であり、仕組みづくりは行政がやる問題もあるかもしれないが、むしろ商工会議所あたりが音頭をとって、新たな仕組みでどう収入に結びつけるかを考える必要があるではないのか。都会の方では駐車場を貸し切って新しいベンチャービジネス立ち上げて上場しているような企業だってある。何でも行政に頼ったりいろいろやってくればいいというような発想でやるのが果たしてベターか。パレットもできるし、少しぐらい魅力のあるものが次第にまちの中にできつつあるが。やはり魅力のある店というのはストーリーがないとだめ。単発であってもだめだし、それをストーリーとして結びつけるようなやっぱり回遊性がないとだめ。
- 委員 最近東京の銀座の通りが変わったと思うのが、不動産屋が入ってきて、あの通りのいろんなお店が化粧を始めていること。従来にない店が出て、大きな変わった看板みたいなものをつくって、そこにたくさん人が入ってくれば4階、5階、6階とテナントが入り、人がふえるというようなことをテレビでやっていた。だから、鳥取の商店街も、要はお化粧を、看板製作も含めてパレットを中心にどういうふうに広げるか。鳥取あたりは結構食べるところがなかなかいいと話を聞くので、食を中心としたり、鳥銀の跡地を中心にそういう面に持っていったらどうか。
- 委員 今、全国の観光地が古い家並みというそういう形になってチェンジして行って、そういうところに若い人たちが行く形になっている。そういういわゆる昔の日本の木の文化の町並みが求められているというところでまたヒントがある。
- 委員 まちの中に奥様のアイデア、子供のアイデアというのをいかし、起業に結びつけるまで、その途中をいろいろ分担して市民も巻き込んでやれば、物すごいまちの活性化が出てくる。先ほどの商店街の活性化にもつながる。市はアイデアを言うばかりではなしに、それをどう実現するかということを中心に考えてもらいたい。
- 委員 9つの旧市町村にはそれぞれのところに特色のある商工事業があるのではないかな。まずこの把握で、点と線をいかに結べて全体の中で生かす方法を考えてみるべきではないかな。旧鳥取市の中心市街地の活性化を考える場合、袋川の流れを生かさないとだめ。若桜橋から鹿野橋の間ぐらいの袋川の土手の活用が周辺ができないものか。
- 石谷副市長 今、平成17年度の事業として、鳥取県と鳥取市が協同でいわゆるパーク・アンド・ライドに取り組む。最寄りの駅まで行ってそこに駐車して、あとは汽車に乗って鳥取駅まで来て、そこで目的地に行く。今、その駅として17年度青谷、浜村、宝木、郡家あたりを設定している。そういうところのまず駅に駐車場をそれなりに整備しまして、そこまで車で行ってもらって、あとは汽車に乗って鳥取に来てもらって、それから鳥取駅から目的地に歩いていってもらって、そういうことを17年度の事業として今考えている。
- 委員 ピンポイントの目的地に車を横づけして目的を達成するというのは非常に便利なのだろうが、駐車場の問題、環境問題等もあるわけで、鳥取の中心市街地の広さだったらやはり歩いて目的を達成していただくような、そういう方向に持っていけないのかなということが一つある。今パーク・アンド・ライドのパークは駅、例えば鎌倉あたりは恐らく車を乗り入れられないわけで、近くに大きな駐車場を持って、そこからシャトルバスみたいなもので送迎したりしているところもある。だから、これから鳥取市もそういうことを考

えないといけない。目的地の近くに駐車場を整備する、それを割安にするということも一つの案だが、これからはマイカーをなるべく使わなくても目的が達せられるような方策も大事なのではないか。

- 委員 国外の環境先進都市には、郊外に大きな駐車場があって、そこからループバスと市電とがすごく網の目のようにもう張りめぐらせている。結局マイカーに乗らなくても、交通網が発達しているから、別に車に乗らなくても市内とかいろいろな目的に公共交通機関を使ってやることができる。
- 委員 買ってもらうためだけの店ではなくて、おもしろい店が少ない。鳥取はお店に入りにくい。家には物があり、買うものは消耗品と食品だけかもしれない。買い物というのはつまり目の買い物であって実際お金を出して買い物ではない。その自由さが商店街の中で、一つの若桜街道のジャスコのフロアみたいな感じがあればおもしろいのになと。
- 委員 経営が軌道に乗るまでの市から援助をすれば、若い子がどんどんいいアイデアを出して、それに啓発されて我々も年代に応じた何か魅力的な店ができる。とにかく、まずは来てもらうことが目的で、たくさんの人が足を運ぶことが大切。
- 委員 気高町の砂丘公園整備というのが継続事業で行われることになっているが、砂丘公園の周りは結構広い土地があり駐車場を広くとれる。そういう整備が進むと、またちょっと視界が広がってくる。鷲峰山から日本海に向けてリフトでもかけたら、温泉とセットでいい観光地になる。
- 委員 三洋電機の技能者、技術者が数多く退職している。シルバー活用で若い人を指導してもらったりということで先輩の技術、ノウハウを伝授できるような環境ということだったが、次の若い世代にどういう風にバトンタッチするか、年少の時期からいろいろと物づくりの関心を持つような動きというものをやっていく必要がある。
- 委員 いろんなアイデアの中には女性のアイデアが非常に多い。アイデアをどういう事業にどうするかアドバイザーがいて、いろんなチャレンジショップを支援し、最後の起業まで持っていけると、お店をつくっていくと活力が出てくる。
- 委員 グループ会社で匠倶楽部というのがあり、退職した人たちがそこに登録して、地域の要望に応じて派遣できるようなシステムを検討している。製造業は本当に厳しく、人件費を7割から8割ぐらいまでダウンさせて、雇用の道を開こうとやったが海外勢に太刀打ちできず、倒産してしまう。
- 委員 いろんな意味での産官学の連携というのをやっているが、行政とやはり企業というものの交流をもっともっと人材派遣も含めてやるべきではないか。もっとお互いに物を申すというところから一緒に考え一緒に行動するようなことの何か仕組みをつくっていかないと、物の考え方が違う。行政のいいところ、民間のいいところをもっといろんな意味で交流できるようなものが必要。
- 委員 企業というのは、いいときもあれば悪いときもある。悪いときにこそ真価を発揮し、危機感を持って本気を出すから、そういうときにいい考え、次のステップに繋がる。
- 委員 現場の毎日の作業の中で創意工夫が生まれる。机の上ではなかなか創意工夫が生まれない。仕事をしながら創意工夫し、みんなで意見を言い合っ物をつくっていく。知識を現実に実際に実行してみさせる、それが教育の「育」。
- 委員 今、津山、姫路、岡山の会議所の工業部会と鳥取の企業が交流をするようにしている。

規模は違うが、仕事をできるだけ鳥取に取り込もうとしており鳥取の企業の雇用をできるだけふやすような形を目指してる。

- 委員 産業教育の方であちこち高校を見て回ったら、今は工業高校と農業高校と一緒にやってる。農工連携として、農業の持ち味と工業のノウハウをミックスし、近代的な農業、企業感覚を入れたような農業経営ができればもっと伸びる。
- 委員 現場を、実際元気のいい農村、農業集落をどうつくるかということがまず一つ。もう一つは担い手とかそういうもので、本当に企業的に企業センスでもって農業を業としてみなしていく分野。農業を抜きにしてもう鳥取の本当に活性化はない。新たな農業、農村スタイルの構築をどうやるべきか。交流の面で田舎を再発見して、田舎のよさを一つの商品として広く魅力あるものにしていく、そして、その中で人材をどのように活用するかがテーマ。
- 委員 農業には全国的な視点からの問題と、地域で何を重点に持っていくかなど、それぞれの役割、機能の点の整理ができていない。産業政策という点と地域政策というふうに分けて考えてはいるが、産業政策ということになるとこれは全国共通の問題をはらんでいる。特に、農業の場合は自給率の問題を初めとして生命産業でもあるから、外国と比較しながら日本の安全保障を含めて、そういう大きな視点からの組み立てが必要。それが政策論の中では産業政策ということでもまとめられるのではないか。
- 委員 問題は地域政策。地域政策ということになると、結局産業を構成する人と、それから農地を含めた資源、農地資源を農業に携わる人がどう生かすかという2つの課題がある。
- 委員 資源の問題の中で今ネックになるのは水の管理と畦畔の管理。集落の住民が一体的にならない限りは水と畦畔の管理はできない。地域政策なるものの組織づくりや仕組みづくりを、どういうふうに市政として手を差し伸べるか。そこには意識改革、共同認識が必要。そういう意味での認識を高める人づくりも大事。
- 委員 集落での組織化、話し合いの場がしっかりして、将来ビジョンも描いて、組織的にみんなが手をつなぐ、そういう段階が一つ必要。外からプロの農業者が1集落、2集落をまとめて農地を利用して経営を成り立っていくと、そのときには水の管理、あぜの管理は村ぐるみである程度援助があるというような形ができてこない限り、集落営農も成り立ってこない。
- 委員 食育問題は、健康だとか、あるいは子供の養育の中で生命の産業を通して心やそういうものを養っていくこと、はぐくんでいくこと、こういう面で今盛んに言われる食育を我々は食農教育と言っておりますけども、単なる食べる段階ではなくて、つくる段階から十分に子供の方にも認識やそういうものを持たせていく必要がある。結局は農家の問題だけではなくて、消費者も含めた農村であり、消費者の理解と協力がなければできない問題が次に起きてくる。
- 委員 一番の問題というのは、国の政策がごろごろ変わるというのが第一、農家はついていけない。農家の約90何%は、第2種兼業農家でほとんどサラリーマン。それで、まず高齢化という大きな問題がある。営農規模は六、七反というのが平均になるから、その水田面積で家族を養っていくことはまずできない。農家の立場からいえば、今は農業というのはもう片手間というのか、かえってお荷物。赤字を出しながらの経営が農家の実態。

- 委員 日本の農業を守るということは、まず担い手、それから生き残るための集落営農によって規模を大きくして、要するに国際競争に勝てる農業をつくっていくにはどうするかということ。
- 委員 鳥取市の組合組織準備会を開き、今月中に何とか鳥取市だけの組織を立ち上げようかという準備はしている。
- 委員 農業にはいろんな実態がある。行政、JAが農村集落のマネジャーとして機能することは、一集落や一個人ではもたないため。集落営農というような一つの集落だけ考えず、離れていても一つの集落営農をやるような仕組みも必要。
- 委員 市町村合併でいろいろな素材があり、土壌、物質、つくる作物によっても大体適したものがあ。だから、これを何とかして大きいスケールのものに持ってくる必要がある。
- 委員 農林省の規制が厳しい。遊休農地の利活用などある程度の規制を緩和しながらやることは、真剣に市は取り組んでほしい。
- 石谷副市長 第8次総合計画の中に数値目標として鳥取市の食糧自給率を何%にするということを入れるべき。今は新鳥取市で40%。農業市だ何だと言いながらそのレベルというのはいかがなものか。食糧危機は必ず来る。集落営農とか集団営農とかが一つの解決策。そのための方策として旧町村単位で農業公社があり、これが本来の役割を果たしてないので、その辺の見直しを行政としてやるべき。
- 委員 必ず今から何年か先には生産調整、今のような調整はJAがしないとできないので、JAが主導的立場において今のような土地の集積とか基本的なスタンスを出してほしいし、農業公社体制で鳥取市がいくというのであるならば、抜本的に組織的な見直しが必要。
- 石谷副市長 支所とも相談しながら、それから実際に今その農業公社に携わっている人の意見も順に聞きながら、本来あるべき姿を追求していかないといけないだろう。
- 委員 自給率の表現は取り扱いを相当注意していかなくてははいけない。自給率というのは一体何なのか。鳥取市だとか鳥取県だとかという地域を単位にして自給率論を語りかけると、それはいろんな問題がぶつかる。今の日本型食生活が大事だと言われ、健康の面から見ると見直しがされておるときに、鳥取市は食生活をどのように見るか。
- 委員 1人当たりの米消費を鳥取市は70キロに5年後には上げて、もう少し日本型食生活で健康な食生活を持っていく。そのためには、学校給食にもう少し1食でも多くしようとか、家庭でも朝の飯に御飯を食べてくださいとか、そのことが地産地消であり、結果的に自給率にずっと上がってくる。
- 委員 よく言われる食べ残しをなくしただけで自給率は上がる。食べ物をもっと大事に、残飯を残さないように、多くしないように、そういう運動をどこから取り組むか、これだけでも食糧を大事にし、結果的には自給率論に迫った話になる。
- 石谷副市長 公社の活用は非常に地域によっては可能性がある。
- 委員 確かに貸し借りをあっせんする場所が公社なのですけども、今は少ないからいいが、これからリタイアする人がどんどん出てきて、際限なく税金を投入することになる。最後は村で守っていくのが、行き着くところ。
- 委員 今の米の鳥取県で生産高から考えてきて、要は雇用人数、鳥取三洋がこういう農業をやるとした場合に何人の雇用形態になるのか、
- 委員 大体公社あたりでやっても、10人ぐらいで五、六十町はやりこなすし、大型農家で

あれば1人で10町、15町をやる。一般の所得をにらんで600万以上のところを目指して、そういう想定はできている。

○委員 条件が整ってくれば、民間の方の株式会社からでも参入ができる。今、JAグループの方で株式会社参入のいわゆる拒否みたいなことを言っているが、農地までも全部所有されてしまうと農道1本にしても生活道にしても生活に結びついているものであるため、都会の企業では協議しきれない部分が出るため。農地を株式会社の企業オンリーのセンスで介入されると困るが、経営に参画されて利用権をどんどん使ってもらおうというのはありがたい話。

○委員 国産大豆全部で豆腐をつくったらいい豆腐ができない。調整剤を使うので、健康食品だと言いながら健康食品ではない矛盾点がある。実際消費者として本当にどこを信じたらいいのか、何を信じたらいいのか。

○委員 生産履歴というのを全部書くようにしている。そういうデータをとり、協定書というのを結びながら、どこから問い合わせがあってもわかるような体制を今できつつある。一般的にはそういう形で食の安全、安心ということで、農協が主体になって農家も今徹底してやっつけようとしている。

○委員 豆乳で洗剤の代わりになる。これも市民が本当にこの豆乳を使うようになったらすごい。

○委員 給食等に何を供給すべきかということ、鳥取市なら鳥取市という地域は何が一番食材として意味があるかということ。米は昔から因幡の米であるから全部100%供給できる。そもそも鳥取市という地域の因幡で何が特産で何が特色があるか。しかも教育上、それから学校給食を通しての健康上、何が地域の産物の中で意味があるか、意義があるかが問われる。

○委員 鳥取県は土物、泥物、泥つきとかの産地。土の中に実るラッキョウ、ナガイモ、白ネギから始まって里芋が大産地。それらを地域のいわゆる特色あるものとして、JAグループではそれを学校給食等に対する地元食材の品目指定した。品目指定をして、学校給食の推進協議会に提案した。病院、施設、ホテルにも同じ方式で全部お願いする予定。それをもって地産地消の流通に乗せていきたい。

○委員 各分野のプロ職員の養成と、次に、公募を、場合によってはプロがいなければ広く一般からでも募集するべき。

○委員 次回以降の部会では、どこか見学とか何か参考になるような、農業関係で例えば、話を聞いてもよくわからないことは見た方が手っ取り早いこともあると思うが。

○委員 マイクロバスを出してもらってどこかを見させてもらうという、現場を見るというのもいいのではないか。それが商業にするのか、工業にするのか、農業にするのか、林業にするのかは別にしてそんなのもちよっとおもしろいのではないか。

○委員 先輩の技術、これを農業に生かせないか。例えば太陽電池の利用とか、それから光センサーを使ったようなもの、それと今度は逆に光を使って防虫害の防除とか、これの簡単にできるノウハウを何かの形で教えていただければ、生かす方法があるのではないか。

○委員 簡単な小さな農水路を使ってできる発電装置とか、というのは施設をつくらうと思うのだけど電気が来ないで、何かそういうノウハウが相談できる場所があったらいいなと思うのですけど。